

平成30年度 北海道大学2次試験前期日程(数学問題)90分  
 文系(文, 教育, 法, 経済, 医(保健[看護・作業]))

- 1  $t > 1$  とする.  $\triangle ABC$  において  $AB = \sqrt{t^2 + 1}$ ,  $BC = t - 1$ ,  $AC = \sqrt{2}$  とし, 点  $O$  を  $\triangle ABC$  の外心とする.
- (1)  $\angle ACB$  の大きさを求めよ.
  - (2) 直線  $CO$  と直線  $AB$  が垂直に交わるときの  $t$  の値を求めよ.
- 2  $a$  と  $b$  は実数とし, 関数  $f(x) = x^2 + ax + b$  の  $0 \leq x \leq 1$  における最小値を  $m$  とする.
- (1)  $m$  を  $a$  と  $b$  で表せ.
  - (2)  $a + 2b \leq 2$  を満たす  $a$  と  $b$  で  $m$  を最大にするものを求めよ. また, このときの  $m$  の値を求めよ.
- 3 赤色, 青色, 黄色のサイコロが1つずつある. この3つのサイコロを同時に投げると. 赤色, 青色, 黄色のサイコロの出た目の数をそれぞれ  $R, B, Y$  とし, 自然数  $s, t, u$  を  $s = 100R + 10B + Y$ ,  $t = 100B + 10Y + R$ ,  $u = 100Y + 10R + B$  で定める.
- (1)  $s, t, u$  のうち少なくとも2つが500以上となる確率を求めよ.
  - (2)  $s > t > u$  となる確率を求めよ.
- 4  $p$  を実数とする. 関数  $y = x^3 + px^2 + x$  のグラフ  $C_1$  と関数  $y = x^2$  のグラフ  $C_2$  は,  $x > 0$  の範囲に共有点を2個もつとする.
- (1) このような  $p$  の値の範囲を求めよ.
  - (2)  $C_1$  と  $C_2$  の  $x > 0$  の範囲にある共有点の  $x$  座標をそれぞれ  $\alpha, \beta$  ( $\alpha < \beta$ ) とし,  $0 \leq x \leq \alpha$  と  $\alpha \leq x \leq \beta$  の範囲で  $C_1$  と  $C_2$  が囲む部分の面積をそれぞれ  $S_1, S_2$  とする.  $S_1 = S_2$  となるような  $p$  の値を求めよ. また, このときの  $S_1$  の値を求めよ.

## 解答例

- 1 (1)  $\triangle ABC$  に余弦定理を適用すると,  $a = t - 1$ ,  $b = \sqrt{2}$ ,  $c = \sqrt{t^2 + 1}$  より

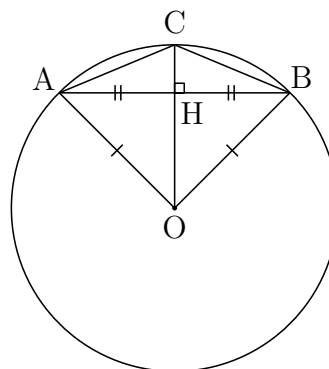
$$\cos C = \frac{a^2 + b^2 - c^2}{2ab} = \frac{(t-1)^2 + 2 - (t^2 + 1)}{2(t-1) \cdot \sqrt{2}} = \frac{-2(t-1)}{2\sqrt{2}(t-1)} = -\frac{1}{\sqrt{2}}$$

よって  $\angle ACB = 135^\circ$

- (2) 直線  $CO$  と直線  $AB$  が垂直であるとき, その交点を  $H$  とすると,  $H$  は線分  $AB$  の中点であるから, 右の図から

$$BC = AC \quad \text{ゆえに} \quad t - 1 = \sqrt{2}$$

よって  $t = 1 + \sqrt{2}$



- 2 (1)  $f(x) = x^2 + ax + b = \left(x + \frac{a}{2}\right)^2 - \frac{a^2}{4} + b \quad (0 \leq x \leq 1)$

(i)  $1 \leq -\frac{a}{2}$  すなわち  $a \leq -2$  のとき,  $m = f(1) = a + b + 1$

(ii)  $0 \leq -\frac{a}{2} \leq 1$  すなわち  $-2 \leq a \leq 0$  のとき,  $m = f\left(-\frac{a}{2}\right) = -\frac{a^2}{4} + b$

(iii)  $-\frac{a}{2} \leq 0$  すなわち  $0 \leq a$  のとき,  $m = f(0) = b$

(i)~(iii) より 
$$m = \begin{cases} a + b + 1 & (a \leq -2) \\ -\frac{a^2}{4} + b & (-2 \leq a \leq 0) \\ b & (0 \leq a) \end{cases}$$

- (2)  $a + 2b \leq 2$  より,  $t = 2 - a - 2b$  とおくと ( $t \geq 0$ )  $b = -\frac{a}{2} + 1 - \frac{t}{2} \quad \dots \textcircled{1}$

これを (1) の結果に代入し, 整理すると

$$m = \begin{cases} \frac{a}{2} + 1 - \frac{t}{2} & (a \leq -2) \\ -\frac{1}{4}(a+1)^2 + \frac{5}{4} - \frac{t}{2} & (-2 \leq a \leq 0) \\ -\frac{a}{2} + 1 - \frac{t}{2} & (0 \leq a) \end{cases}$$

$t$  を固定すると,  $m$  は  $a$  の関数で,  $a = -1$  のとき最大値  $\frac{5}{4} - \frac{t}{2}$  をとる.

これがさらに最大となるのは,  $t = 0$  のときで最大値  $\frac{5}{4}$ .

このとき,  $\textcircled{1}$  から  $b = \frac{3}{2}$ . よって  $a = -1$ ,  $b = \frac{3}{2}$ ,  $m = \frac{5}{4}$

- 3** (1)  $s = 100R + 10B + Y$  について、 $s$  が 500 以上であることと  $R$  が 5 または 6 であることは同値. 同様に、 $t$ ,  $u$  がそれぞれ 500 以上であることと、 $B$ ,  $Y$  がそれぞれ 5 または 6 であることは同値である.

$$s, t, u \text{ のうち丁度 2 つが 500 以上である確率は } {}_3C_2 \left(\frac{2}{6}\right)^2 \frac{4}{6} = \frac{2}{9}$$

$$s, t, u \text{ の 3 つが 500 以上である確率は } \left(\frac{2}{6}\right)^3 = \frac{1}{27}$$

$$\text{よって、求める確率は } \frac{2}{9} + \frac{1}{27} = \frac{7}{27}$$

$$(2) s > t \text{ となるとき } s - t = 100(R - B) + 10(B - Y) + Y - R > 0 \quad \cdots \textcircled{1}$$

$$t > u \text{ となるとき } t - u = 100(B - Y) + 10(Y - R) + R - B > 0 \quad \cdots \textcircled{2}$$

上の 2 式の百の位の係数に注目すると、 $R - B \geq 0$  かつ  $B - Y \geq 0$  であることが  $\textcircled{1}$ ,  $\textcircled{2}$  を満たすための必要条件である.

- (i)  $R - B > 0$ ,  $B - Y > 0$ , すなわち、 $R > B > Y$  のとき、 $\textcircled{1}$ ,  $\textcircled{2}$  を満たす. このときの確率は

$$\frac{{}_6C_3}{6^3} = \frac{20}{6^3}$$

- (ii)  $R - B = 0$ ,  $B - Y > 0$ , すなわち、 $R = B > Y$  のとき、 $\textcircled{1}$ ,  $\textcircled{2}$  を満たす. このときの確率は

$$\frac{{}_6C_2}{6^3} = \frac{15}{6^3}$$

- (iii)  $R - B > 0$ ,  $B - Y = 0$ , すなわち、 $R > B = Y$  のとき、 $\textcircled{2}$  を満たさない.

- (iv)  $R - B = 0$ ,  $B - Y = 0$ , すなわち、 $R = B = Y$  のとき、 $\textcircled{1}$ ,  $\textcircled{2}$  を満たさない.

$$(i) \sim (iv) \text{ より、求める確率は } \frac{20}{6^3} + \frac{15}{6^3} = \frac{35}{216}$$

- 4 (1)  $C_1: y = x^3 + px^2 + x$ ,  $C_2: y = x^2$  の2式から,  $y$  を消去して整理すると

$$x\{x^2 + (p-1)x + 1\} = 0$$

条件を満たすとき, 2次方程式

$$x^2 + (p-1)x + 1 = 0 \quad \dots (*)$$

の係数について

$$D = (p-1)^2 - 4 \cdot 1 \cdot 1 = (p+1)(p-3) > 0 \quad \dots \textcircled{1}$$

2次方程式(\*)の2つの解を  $\alpha, \beta$  とすると ( $\alpha < \beta$ )

$$\alpha + \beta = -p + 1 > 0, \quad \alpha\beta = 1 \quad \dots (**)$$

① および上式から  $p < -1$

$$(2) S_1 = \int_0^\alpha x(x-\alpha)(x-\beta) dx, \quad S_2 = - \int_\alpha^\beta x(x-\alpha)(x-\beta) dx$$

$S_1 = S_2$  より,  $S_1 - S_2 = 0$  であるから

$$\begin{aligned} S_1 - S_2 &= \int_0^\alpha x(x-\alpha)(x-\beta) dx + \int_\alpha^\beta x(x-\alpha)(x-\beta) dx \\ &= \int_0^\beta x(x-\alpha)(x-\beta) dx \\ &= - \int_0^\beta x^2(\beta-x) dx + \alpha \int_0^\beta x(\beta-x) dx \\ &= -\frac{1}{12}\beta^4 + \alpha \cdot \frac{1}{6}\beta^3 = \frac{\beta^3}{12}(2\alpha - \beta) = 0 \end{aligned}$$

$0 < \alpha < \beta$  であるから  $\beta = 2\alpha$  (\*\*) の第2式により  $\alpha = \frac{1}{\sqrt{2}}, \beta = \sqrt{2}$

さらに (\*\*) の第1式により  $\frac{1}{\sqrt{2}} + \sqrt{2} = -p + 1$  ゆえに  $p = 1 - \frac{3}{2}\sqrt{3}$

$$\begin{aligned} S_1 &= \int_0^\alpha x(x-\alpha)(x-\beta) dx = \int_0^\alpha x(x-\alpha)(x-2\alpha) dx \\ &= - \int_0^\alpha x^2(\alpha-x) dx + 2\alpha \int_0^\alpha x(\alpha-x) dx \\ &= -\frac{1}{12}\alpha^4 + 2\alpha \cdot \frac{1}{6}\alpha^3 = \frac{1}{4}\alpha^4 = \frac{1}{4} \left( \frac{1}{\sqrt{2}} \right)^4 = \frac{1}{16} \end{aligned}$$

補足  $\int_\alpha^\beta (x-\alpha)^m (\beta-x)^n dx = \frac{m!n!}{(m+n+1)!} (\beta-\alpha)^{m+n+1}$